

A. 目的

薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器、注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

B. 研究グループの構成と研究方法

本研究グループは、下記のように3つのサブグループより成り立っている。

1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査（病院群調査）

首都圏A病院

C病院

近畿圏G病院

中国圏B病院

九州圏E病院

F病院

2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査（非病院群調査）

首都圏某薬物依存者回復支援グループD

茨城ダルク

3. 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査（外国人群調査）

首都圏C病院

わが国で乱用されている依存性薬物は、乱用者数の上では、有機溶剤と覚せい剤が圧倒的に多い。この両薬物は、乱用の繰り返しにより、高頻度に精神病を引き起こすため、薬物乱用・依存者を調査するには、精神科医療施設での調査が効果的である。また、覚せい剤の乱用は、相変わらず静脈注射によることが多いため、HIV感染の危険がきわめて高い。

そこで、当研究グループでは、薬物乱用・依存者が多いと考えられる地域の、かつ、薬物依存・精神病患者を多く診ている病院を調査定点とし、患者の承諾を得た上で、個人面接聞き取り調査・採血調査を実施した（図1）。調査定点の6病院で、わが国の覚せい剤関連精神疾患患者全体の約18%（2000年6月30日現在、全国精神病院の病名別在院患者数より、158人/878

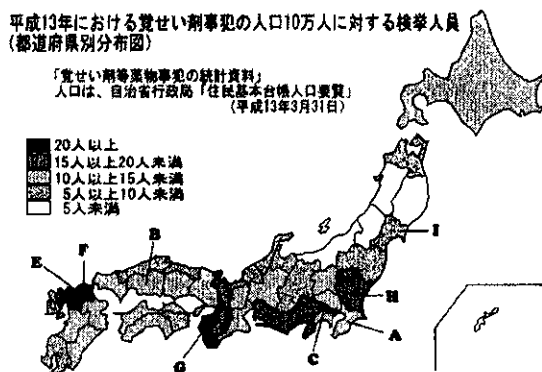


図1 平成13年度における覚せい剤事犯の人口10万人に対する検挙人員と調査定点

人。)は捕捉できると推定している。

また、薬物乱用・依存者の全てが医療施設を受診するわけではないから、薬物依存者回復支援グループの協力を得て、医療施設を受診していない薬物乱用・依存者に対する個人面接聞き取り調査・採血調査も、本人の同意の下で実施した。

さらに、これまでの本グループによる調査より、外国人精神障害者での薬物乱用経験率は日本人に比べて明らかに高いことがわかっている。そこで、外国人精神障害者を多く診ている首都圏の病院で、患者の同意の下で、外国人精神障害者に対する個人聞き取り面接調査・採血調査を実施した。

いずれの調査も、調査期間は2002年1月1日～2002年12月31日である。

覚せい剤等の使用は、わが国では、それ自体が犯罪行為であり、本調査は違法行為の掘り起こしの側面を持っており、調査への同意を得ることが極めて困難な調査である。しかも、ハイリスク行動に関する聞き取り調査には、調査者側の訓練・経験が必要であり、調査実施の困難性はなおさらである。

C. 本年度の目標

「1. 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」はすでに、最低限の調査定点を確保（図1）し、年間500人前後の薬物依存・精神病患者調査を実施できる体制になっている。本年度は「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」を強化することに力を注いだ。

その結果、2000年には34人しか調査できなかったが、2001年は45人、2002年には66人の調査ができた。この集団の調査が最も難しいが、今後も継続課題となる。なお、今後の調査に向けて、宮城県での某薬物依存回復支援グループと協議し、来年度から調査できるようセッティングもした。

なお、この「2. 医療機関を受診していない薬物依存者調査」は、調査実施と共に、HIV及び肝炎予防啓発プログラムをも兼ねており、肝炎患者については、必要に応じて医療機関を紹介すると共に、薬物依存についても、必要に応じて、医療機関に依存者を結びつけるというアウトリーチ的プログラムとして実施している。

D. 各研究結果

研究1 精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査

対象患者をICD-10分類に従って分類し、各カテゴリー毎に人口統計学的属性・血清検査結果、身体所見を示したものが表1である。

性別では、ICD-10分類に関わらず、これまで同様に男性が圧倒的に多く、男：女は8：2であった。

年齢はICD-10分類に対応して特徴的である。「揮発性溶剤」（有機溶剤）では20歳代、「多剤」及び「覚せい剤」では30歳代半ばであり、これまでと同じであった。

ICD-10分類に関わらず、独身者が多い一方で、離婚歴のある者の割合が一般人口での割合より明らかに高かった。

本調査では、2001年調査で、初めてHIV感染者を認めた（1人/1868人）。そのケースは覚せい剤依存の30歳男性であったが、注射による薬物乱用歴はなく、タイでのCSWとの性接触による感染と考えられるケースであった。

しかし、今回の2002年調査では、覚せい剤依存者から1名、多剤依存者から1名のHIV感染者を認めた。

この2例は下記の通りである。

31歳 女性 覚せい剤依存者

IDUsである性的伴侶から感染。

27歳 男性 多剤依存者

MSM間での性行為により感染。

本調査により、IDUs間でのHIV感染が確認されたのは今回が初めてである。また、2001年調査による1例と今回の1例は、CSW（タイ）及びMSMとの性行為が感染源と推定される。

いずれにしても、薬物乱用・依存者におけるHIV感染のリスクは、注射針・シリンジの共有によるだけにあるのではなく、性行為による危険性も高いことが示唆されているわけで、今後、薬物問題を性行動の側面から検討してゆく必要がある。

また、感染源はどうであれ、2001年調査で1名、2002年調査で2名の新規HIV抗体陽性者が特定されたことは、いよいよ薬物乱用・依存者間で、HIV感染が広がり始めた可能性を強く示唆するものであり、今後の対応策が苦慮されるところである。

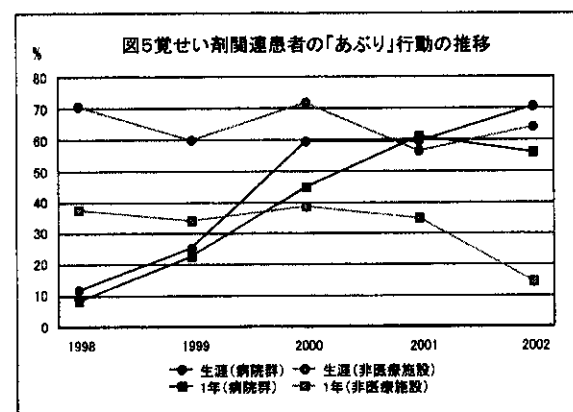
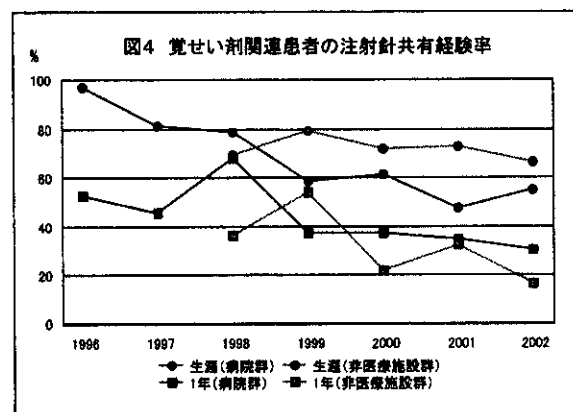
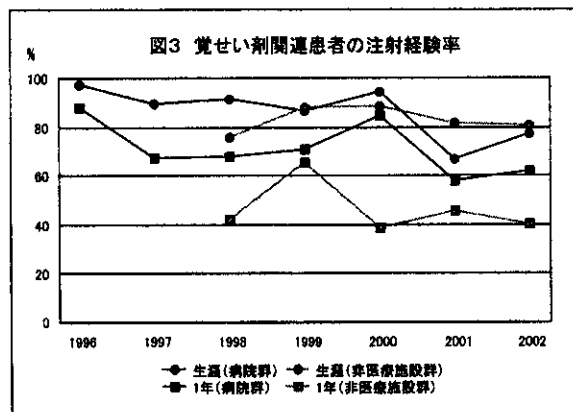
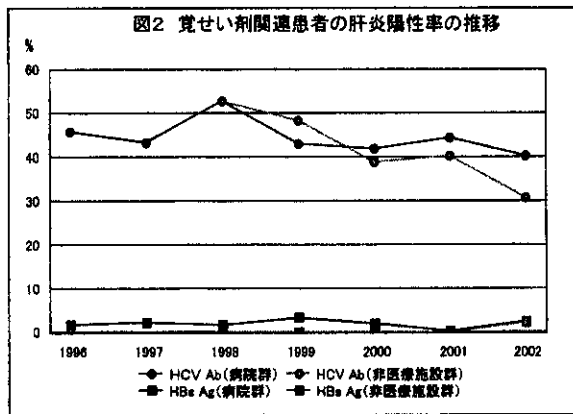
HCVに関しては、これまで同様、覚せい剤関連患者におけるHCV抗体陽性率は高く、2002年調査では陽性率は40.5%であった。

身体所見では、ICD-10分類に関わらず、「歯の著明不良あり」「入れ墨あり」の率が高く、覚せい剤関連患者では「指つめ+」の率も一般人口のそれよりも明らかに高いと推定された。また、「根性焼き」とは、有機溶剤乱用時（ICD-10では揮発性溶剤F18）に、タバコの火を自らの手の甲に押しつけることによって出来る火傷痕であり、有機溶剤乱用の既往を推測させるものであるが、「揮発性溶剤」患者のみならず、覚せい剤関連患者やその他の薬物関連患者にも、その保有率が高く、有機溶剤の乱用が覚せい剤等の乱用へとつながり易いという経験則を裏打ちしている。

覚せい剤関連患者における肝炎抗体（抗原）陽性率の推移を図2に示した。1996年以降、非医療施設群では、減少傾向が認められるが、病院群では、ほとんど変化がないようである。

表2は、注射行動・性行動等のHIV感染に関する危険行動調査の結果である。

わが国では、依存性薬物の静脈注射とは、事実上、覚せい剤の静脈注射を意味している。表2に示すように、覚せい剤関連患者の生涯注射



経験率は77.7%と高く、覚せい剤関連患者の約55~58%の者に、シリンジ/針の生涯共有経験があることがわかる。

最近1年間に限れば、注射経験率は若干下がるが、それでも覚せい剤関連患者の62%には最近1年間での注射既往があり、31~34%にはシリンジ/針の共有経験率もあった。

図3は覚せい剤関連患者の注射行動の推移を示している。1996年以降、病院群における注射経験率は緩やかながら低下傾向が見られる。その背景には「あぶり」の普及が影響していると推定される。

また、図4は注射針の共有経験率の推移を示している。ここでは、前述の注射経験率より顕著な減少傾向が認められる。その背景には「あぶり」の普及がある。

第2次覚せい剤乱用期（1970年~1994年）には、覚せい剤の乱用と言え、静脈注射一辺倒であったが、その後の第3次乱用期（1995年~現在）では、覚せい剤を火であぶって吸う「あぶり」が若い年代の覚せい剤乱用者間で広がった。図5は「あぶり」の経験率を示しているが、2000年以降、「あぶり」が定着した感がある。2001年調査では、この1年間での注射と「あぶり」の頻度比較（表2-1）で「あぶり」が注射を初めて上回ったが、今回は再び注射優位の結果であった。

「あぶり」はHIV感染とは直接の関連はないが、その気軽さ及びファッションブルな感覚から覚せい剤乱用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。しかも、その気軽さ、ファッションブルさから、性行動との結びつきの促進が憂慮され、今後の大きな問題と考えられる。

「風俗」での性交渉は、ICD-10分類に関わらず、最近1年間で約30%の者に認められた（表2-1）。その際のコンドームの使用は徹底されておらず、啓発が必要である。

「風俗」以外での不特定多数との性交渉（「行きずり」の性交渉）経験率は、2000年調査では、それ以前の調査より低い約26%、2001年調査では更に低下し、約16%であったが、今回は約10%と更に低下していた。ここでもコンドーム使用の徹底が憂慮される。

最近1年間での海外渡航者（表2-2）は、数の上では少ないが、渡航先での薬物使用率、性接触率はむしろ高く、注意を要する。

表3は、ICD-10分類にかかわらず、注射の既往、入れ墨の有無による人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示したものである。

最近1年間で注射既往のある者の平均年齢は約36歳であり、これまでに注射既往のない者のそれは32歳で、以前には注射既往があるが、この1年間ではない者のそれは38歳であった。これは、「あぶり」で始まり、注射に移行し、その後は注射をやめても、薬物依存ないしは精神症状が残るといった経過パターンを象徴していると読み取れる。

また、HCV抗体陽性率は、注射による乱用経験のある二つの群で高く、HCV感染が注射針の共有に起因することを強く示唆している。

さらに、注射経験者では「入れ墨」保有率、「指つめ」のある率も高く、注射経験者の社会的属性が偏っている者が少なくないことを示している。

また、「入れ墨」は、皮膚を彫る際の針によってHIV感染等の感染危険行動になり得る。表3に示したように、「入れ墨」保有者でのHCV抗体陽性率は約40%と高かった。

表4は、ICD-10分類に関わらず、調査対象を注射既往、入れ墨の有無から、注射行動、性行動についてみたものである。

この1年間でも注射の既往がある群では、「風俗」での「不特定多数」でも、コンドームを付けなかったことがある割合が3群中、最も高く、全体的に考えて、HIV感染の危険が最も高い群とすることが出来る。

以上より、覚せい剤関連患者では、注射行動という危険行動に加えて、入れ墨保有率も高く、性行動上の危険因子も含めて、複合的に危険性が増していると考えられる。しかし、昨年および本年のHIV陽性者では、薬物乱用・依存者ではあるものの、感染源としては性行動優位であることを重く見る必要がある。

研究2 医療機関を受診していない薬物依存者調査

表5は医療機関を受診していない薬物依存者のICD-10分類にもとづく、人口統計学的属性、血清検査結果、身体所見を示している。

男女比は男：女で9：1であり、病院群よりは男性優位である。覚せい剤関連患者の平均年齢は約34歳であり、病院群より2歳若い。このことはこの群の特徴の一つである。未婚者が多いと同時に離婚経験者も多いことは、病院群と同じであった。

また、覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は31%であり、病院群の約41%（表1）よりは低い。が、そもそも高いことには変わりはない。

覚せい剤関連患者についての両群の比較では、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群＝31：36と15：17であり、ほとんど同じであるが、「根性焼き」「自傷痕」のある率は、非病院群で高く（17：36、12：27）、若くして薬物乱用を初め、依存に陥った者が、非病院群では病院群よりは多いことを物語っている（表1、表5）。

図5に示したように、この群は病院群よりも以前から「あぶり」を含めて、あらゆる方法で薬物を使用してきた者が多く、薬物依存の重傷群でもある。しかし、図2～図4に見るように、この群でのHCV陽性率は病院群よりも低下が著しく、この1年間での注射経験率、針の共有経験率も低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの具現化でもある。

研究3 精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査

2002年中に18カ国54人の入院があった（表9）。表12は、1995年以降の対象者数と調査結果の推移を示しているが、2000年に落ち込んだ対象者数は、また増加傾向にあるようである。

入院理由が、依存性薬物使用による者は2001年調査では、わずか2名であったが、2002年調査では、9名と増加した（表10）。

本調査では、3名のHIV感染者が認められた。（表11）。表12に示すように、1995年以降、薬

物使用歴+、静脈注射歴+の者の割合は2001年までは、漸減傾向にあったが、2002年調査では再び上昇を示している。ただし、「風俗」経験と不特定多数との性交渉のある者の割合が、1995年以降、確実に減少してきており、来日する外国人の質が変わってきている可能性がある。

HIV抗体陽性であった3例は以下の通りである。3例とも薬物使用歴はないという。

- 25歳 タイ国籍 女性 本国で感染。
- 36歳 ウガンダ国籍 男性 詳細不明。
- 38歳 韓国国籍 男性 日本でMSM間で感染。

表12の通り、この群では、ほぼ毎年HIV感染者が認められており、今後も継続的な調査が必要である。

E. 結論

① 薬物乱用・依存者におけるHIV感染を含めたSTD感染の実態を把握し、あわせて、注射器注射針の使用実態、性行動等HIV感染に関わるハイリスク行動を調査することによって、薬物乱用・依存者に対するHIV対策の基礎資料に供することを目的とした。

表9 外国人患者の国籍

| 出身国籍 | 男性 | 女性 | 合計 |
|--------|---------------|--------------|---------------|
| 韓国 | 10 | 6 | 16 |
| 中国 | 6 | 5 | 11 |
| アメリカ | 4 | 1 | 5 |
| インドネシア | 2 | 1 | 3 |
| イラン | 2 | 0 | 2 |
| ブラジル | 1 | 1 | 2 |
| タイ | 1 | 1 | 2 |
| 台湾 | 0 | 2 | 2 |
| フィリピン | 0 | 2 | 2 |
| インド | 1 | 0 | 1 |
| ウガンダ | 1 | 0 | 1 |
| オランダ | 1 | 0 | 1 |
| カナダ | 1 | 0 | 1 |
| コロンビア | 1 | 0 | 1 |
| フランス | 1 | 0 | 1 |
| ポリビア | 1 | 0 | 1 |
| ミャンマー | 1 | 0 | 1 |
| ガーナ | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 34 | 20 | 54 |
| 平均年齢 | 36.3 ±12.0 | 29.3 ±7.2 | 34.8 ±11.4 |

② 研究は「1.精神科医療施設に入院した薬物依存・精神病患者調査」(以下、病院群)、「2.医療機関を受診していない薬物依存者調査」

(以下、非病院群)、「3.精神科医療施設に入院した外国人精神障害者調査」(以下、病院群)の3部門調査から成っている。各研究においては、対象者の同意の下で、調査用紙によるハイリスク行動の聞き取り調査と採血による血清学的検査を実施した。

③ 病院群調査において、新規に2名のHIV感染者が認められた。1993年より開始された本調査において、感染者が認められたのは、2001年の1名が始めてであったが、2002年調査では2名であり、いよいよこの対象群にもHIV感染の浸透が始まりつつある可能性が危惧された。

④ 感染ルートは、1名はIDUs間での感染と推定されたが、1名はMSM間での性行為によると

表10 外国人患者のICD-10分類

| ICD-10 | 男性 | 女性 | 合計 |
|-------------|----|----|----|
| 精神作用物質性障害 | 9 | 0 | 9 |
| アルコール | 3 | 0 | 3 |
| 大麻 | 1 | 0 | 1 |
| 覚せい剤 | 3 | 0 | 3 |
| 多剤 | 2 | 0 | 2 |
| 精神分裂病 | 7 | 5 | 12 |
| 急性一過性精神病性障害 | 17 | 11 | 28 |
| 躁病エピソード | 0 | 1 | 1 |
| 重度ストレス反応 | 0 | 1 | 1 |
| 中度精神遅滞 | 0 | 1 | 1 |
| 特定的人格障害 | 1 | 0 | 1 |
| アルツハイマー | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 34 | 20 | 54 |

表11 外国人患者の薬物乱用・性行動と血清検査結果

| | 男性 | 女 | 合計 |
|-------------|----|----|----|
| 薬物使用歴+ | 6 | 0 | 6 |
| 静脈注射歴+ | 6 | 0 | 6 |
| 「風俗」経験+ | 1 | 2 | 3 |
| 不特定多数との性交渉+ | 3 | 1 | 4 |
| 同性愛+ | 1 | 0 | 1 |
| HIV抗体+ | 2 | 1 | 3 |
| HCV抗体+ | 3 | 0 | 3 |
| HBs抗原+ | 1 | 0 | 0 |
| TPHA+ | 1 | 0 | 1 |
| n | 34 | 20 | 54 |

表12 外国人患者の薬物乱用・性行動と血清検査結果の変遷

| | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 |
|-----------------|-----------------|----------------|----------------|---------------|------------|------|------|---------------|
| 薬物使用歴+ | 23.1 (12/52) | 18.2 | 7.0 (3/43) | 18.0 | 7.9 | 6.7 | 6.3 | 11.1 |
| 静脈注射歴+ | 13.0 (6/46) | 12.7 | 2.3 (1/44) | 4.9 | 7.9 | 6.7 | 0 | 11.1 |
| 「風俗」経験+ | 73.9 (17/23) | 38.2 | 13.3 (6/45) | 24.6 | 7.9 | 0 | 3.1 | 5.6 |
| 不特定多数との 性交渉+ | 27.7 (13/47) | 27.3 | 17.8 (8/45) | 6.6 | 7.9 | 40.0 | 6.3 | 7.4 |
| 同性愛+ | - | 3.6 | 0 (0/45) | 0 | 0 | 0 | 3.1 | 1.9 |
| HIV抗体+ | 0 (0/47) | 0 | 4.9 (2/41) | 1.8 (1/57) | 5.3 | 6.7 | 0 | 5.7 (3/53) |
| HCV抗体+ | 11.8 (9/76) | 10.9 | 0 (0/42) | 1.8 (1/57) | 7.9 | 20.0 | 9.4 | 5.6 (1/53) |
| HBs抗原+ | 4.1 (3/73) | 10.9 | 9.3 (4/43) | 5.3 | 0 | 6.7 | 0 | 1.9 (1/53) |
| HBs抗体+ | 4.5 (1/22) | 0 (0/1) | 0 (0/2) | 0 (0/3) | 0 (0/3) | 6.7 | - | 14.3 (1/7) |
| TPHA+ | 4.8 (2/42) | 10.2 (5/49) | 2.3 (1/43) | 0 | 5.3 | 6.7 | 3.1 | 1.9 (1/53) |
| n | 76 | 55 | 47 | 61 | 38 | 15 | 32 | 54 |

推定された。

⑤ このことは、薬物問題は、薬物使用に際しての注射針の共有だけにあるのではなく、性行動との結びつきも強いことを示唆している。

⑥ 一方、これまで毎年1~2人のHIV感染者が確認されていた外国人群調査では、3名のHIV感染者が認められた。

⑦ 病院群での覚せい剤関連患者では、HCV抗体陽性率が40.5%と高く、77.7%の者に、これまでに注射による薬物乱用の既往（以下、注射の既往）があり、この1年間でも62.0%の者に注射の既往があった。また、約58~56%の者にシリンジ及び針の共有経験があり、最近1年間に限っても、約34~31%の者にシリンジ及び針の共有経験があった。ただし、経年的には注射経験率、注射針の共有経験率は低下してきていた。その背景には「あぶり」の普及があると推測された。

⑧ 病院群における「あぶり」の経験率は2000年以降、定着したようである。この「あぶり」は、HIV感染と直接の関連はなく、その気軽さ及びファッションナブルな感覚から覚せい剤乱

用自体を拡大させる危険があり、薬物乱用防止の視点からは決して歓迎される形態とは言えない。同時に、その気軽さ及びファッションナブルさから、性行動と結びつきやすい傾向が同え（本調査で確認されたHIV感染者のように）、今後、薬物使用と性行動との関係に関する対応が迫られよう。

⑨ 非病院群の覚せい剤関連患者でのHCV抗体陽性率は31%であり、病院群の約41%よりは低いが、そもそも高いことには変わりはない。

⑩ 覚せい剤関連患者について、病院群、非病院群とを比較すると、「入れ墨」のある率と「指つめ」のある率は、それぞれ病院群：非病院群=31:36と15:17であり、ほぼ同じであるが、「根性焼き」「自傷痕」のある率は、非病院群で高く（17:36、12:27）、若くして薬物乱用を初め、依存に陥った者が、非病院群では病院群よりは多いことを物語っている。

しかし、非病院群でのHCV抗体陽性率は病院群よりも経年的低下が著しく、この1年間での注射経験率、針の共有経験率も低い。これらは、この群の者たちが、薬物を断ち切るために、回

復支援グループの指導の元で共同生活を送りながら、回復を目指していることの具現化でもある。

⑩ 以上により、いよいよ、わが国の薬物乱用・依存者群にもHIV感染の危険が現実的になってきた感がある。しかも、本調査によれば、その感染ルートは、薬物乱用時の注射針の共有に限定されるわけではなく、薬物使用が性行動と結びつきやすいことを示唆するものであり、今後、薬物と性行動といった切り口からの対策が要求される結果であった。

今後、ますます厳重なモニタリングが必要である。

F. 発表論文 なし

表1 【医療機関を受診した薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

| | | ICD-10 | | | | | | | |
|---------------|---------|--------------|--------------|---------------|---------------|--------|--------------|---------------|---------------|
| | | F11 | F12 | F13 | F15 | F16 | F18 | F19 | 全体 |
| | | アヘン類 | 大麻 | 鎮静睡眠薬 | 覚せい剤 | 催幻覚剤 | 揮発性溶剤 | 多剤 | |
| | | 4[0.8] | 4[0.8] | 25[5.2] | 340[70.7] | 1[0.2] | 63[13.1] | 44[9.1] | 481[100] |
| 性別 | 男 | 3(75.0) | 2(50.0) | 12(48.0) | 271(79.7) | 1(100) | 58(92.1) | 33(75.0) | 380(79.0) |
| | 女 | 1(25.0) | 2(50.0) | 13(52.0) | 69(20.3) | 0(0) | 5(7.9) | 11(25.0) | 101(21.0) |
| 年齢 | 20歳未満 | | | | 9(2.6) | | 5(7.9) | 3(6.8) | 17(3.5) |
| | 20歳代 | 1(25.0) | 4(100) | 8(32.0) | 103(30.3) | | 36(57.1) | 9(20.5) | 161(33.5) |
| | 30歳代 | 2(50.0) | | 8(32.0) | 123(36.2) | 1(100) | 19(30.2) | 22(50.0) | 175(36.4) |
| | 40歳代 | 1(25.0) | | 5(20.0) | 61(17.9) | | 3(4.8) | 5(11.4) | 75(15.6) |
| | 50歳代 | | | 3(12.0) | 28(8.2) | | | 5(11.4) | 36(7.5) |
| | 60歳代 | | | 1(4.0) | 16(4.7) | | | | 17(3.5) |
| | 平均年齢±SD | 36.3 ±7.5 | 23.5 ±1.7 | 36.6 ±12.2 | 35.9 ±11.3 | 32 | 27.8 ±6.5 | 34.4 ±10.4 | 34.6 ±11.0 |
| 現在の配偶歴 | 未婚 | n=2 | n=2 | n=15 | n=122 | n=1 | n=13 | n=35 | n=190 |
| | 既婚 | 50.0 | 100 | 73.3 | 59.0 | | 76.9 | 82.9 | 65.8 |
| | 離婚 | 50.0 | | 26.7 | 18.0 | 100 | 15.4 | 14.3 | 18.4 |
| | 不明 | | | | 22.1 | | 7.7 | 2.9 | 15.3 |
| | 離婚歴あり | 0 | 0 | 20.0 | 28.7 | 100 | 7.7 | 5.7 | 22.1 |
| | 不明 | | | | 0.8 | | | | 0.5 |
| 血清検査(%) | HIV抗体陽性 | n=4 | n=4 | n=24 | n=317 | n=1 | n=62 | n=43 | n=455 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0.3 | 0 | 0 | 2.3 | 0.4 |
| | HCV抗体陽性 | 0 | 0 | 0 | 40.5 | 0 | 8.1 | 18.6 | 31.1 |
| | | | | | 128/316 | | 5/62 | 8/43 | 141/454 |
| | HBs抗原陽性 | 0 | 0 | 0 | 2.5 | 0 | 0 | 0 | 2.0 |
| | | | | | 8/317 | | | 1/43 | 9/455 |
| | HBs抗体陽性 | 0 | 0 | 0 | 2.2 | 0 | 0 | 3.1 | 2.0 |
| | 0/2 | 0/1 | 0/6 | 2/93 | 0/1 | 0/12 | 1/32 | 3/147 | |
| HBc抗体陽性 | 0 | - | 16.7 | 0 | - | 0 | 0 | 1.1 | |
| | 0/2 | 0/0 | 1/6 | 0/60 | 0/0 | 0/1 | 0/24 | 1/93 | |
| TPHA陽性率 | 0 | 0 | 0 | 0.6 | 0 | 0 | 0 | 0.4 | |
| | 0/4 | 0/4 | 0/24 | 2/317 | 0/1 | 0/62 | 0/43 | 2/455 | |
| 性病既往(自己申告)(%) | モジラミ | n=2 | n=2 | n=15 | n=122 | n=1 | n=13 | n=35 | n=190 |
| | | 0 | 0 | 6.7 | 9.8 | 0 | 0 | 2.9 | 7.4 |
| | 淋病 | 0 | 0 | 0 | 5.7 | 0 | 7.7 | 0 | 4.2 |
| | クラミジア | 0 | 0 | 0 | 0.8 | 0 | 0 | 2.9 | 1.1 |
| | 梅毒 | 0 | 0 | 0 | 3.3 | 0 | 0 | 0 | 2.1 |
| 身体所見(%) | 輸血の既往+ | n=2 | n=2 | n=15 | n=122 | n=1 | n=13 | n=35 | n=190 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0.8 | 0 | 7.7 | 0 | 1.1 |
| | | | | | 1/121 | | 1/13 | | 2/189 |
| | 歯の著明不良 | 0 | 50.0 | 0 | 27.9 | 100 | 53.8 | 34.3 | 28.9 |
| | 注射痕あり | 0 | 0 | 0 | 32.8 | 0 | 0 | 8.6 | 22.6 |
| | 入れ墨あり | 0 | 0 | 6.7 | 31.1 | 0 | 7.7 | 22.9 | 25.3 |
| | 指つめあり | 0 | 0 | 0 | 14.8 | 0 | 0 | 5.7 | 10.5 |
| | 根性焼きあり | 0 | 0 | 0 | 17.2 | 0 | 46.2 | 40.0 | 21.6 |
| | 白傷痕あり | 0 | 0 | 6.7 | 12.3 | 0 | 7.7 | 11.4 | 11.1 |

表2-1【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

| | ICD-10 | | | | | | | 全体 |
|-------------------------------|--------|--------|---------|-----------|--------|---------|----------|----------|
| | F11 | F12 | F13 | F15 | F16 | F18 | F19 | |
| | アヘン類 | 大麻 | 鎮静睡眠薬 | 覚せい剤 | 催幻覚剤 | 揮発性溶剤 | 多剤 | |
| | 2[1.1] | 2[1.1] | 15[7.9] | 122[64.2] | 1[0.5] | 13[6.8] | 35[18.4] | 190[100] |
| これまでに(%) | | | | n=121 | | | | n=189 |
| 注射経験あり | 50.0 | 50.0 | 0 | 77.7 | 0 | 23.1 | 48.6 | 61.4 |
| シジ 共有経験+ | 0 | 0 | 0 | 57.9 | 0 | 23.1 | 22.9 | 42.9 |
| 針の共有経験+ | 0 | 0 | 0 | 55.4 | 0 | 23.1 | 22.9 | 41.3 |
| 注射回数 | | | | n=120 | | | | n=188 |
| なし | 50.0 | 50.0 | 100 | 22.5 | 100 | 76.9 | 51.4 | 38.8 |
| 1~49回 | 50.0 | 50.0 | 0 | 24.2 | 0 | 15.4 | 34.3 | 23.9 |
| 50~99回 | 0 | 0 | 0 | 29.2 | 0 | 0 | 5.7 | 19.7 |
| 100回以上 | 0 | 0 | 0 | 24.2 | 0 | 7.7 | 8.6 | 17.6 |
| 最近1年間で(%) | | | | n=121 | | | | n=189 |
| 注射経験あり | 50.0 | 0 | 0 | 62.0 | 0 | 0 | 37.1 | 47.1 |
| シジ 共有経験+ | 0 | 0 | 0 | 33.9 | 0 | 0 | 17.1 | 24.9 |
| 針の共有経験+ | 0 | 0 | 0 | 30.6 | 0 | 0 | 17.1 | 22.8 |
| 注射回数 | | | | n=120 | | | | n=1884 |
| なし | 50.0 | 100 | 100 | 38.3 | 100 | 100 | 62.9 | 53.2 |
| 1~49回 | 50.0 | 0 | 0 | 55.8 | 0 | 0 | 34.3 | 42.6 |
| 50~99回 | 0 | 0 | 0 | 4.2 | 0 | 0 | 2.9 | 3.2 |
| 100回以上 | 0 | 0 | 0 | 1.7 | 0 | 0 | 0 | 1.1 |
| これまでに「あぶり」の経験あり(%) | | | | n=121 | | | | n=189 |
| | 0 | 50.0 | 0 | 71.1 | 0 | 15.4 | 60.0 | 58.2 |
| この1年間で「あぶり」の経験あり(%) | | | | n=121 | | | | n=189 |
| | 0 | 50.0 | 0 | 56.2 | 0 | 7.7 | 48.6 | 46.0 |
| この1年間ではどちらが多いか?(%) | | | | | | | | |
| 注射 | 50.0 | n=1 | n=6 | n=120 | | n=11 | n=33 | n=174 |
| 「あぶり」 | 0 | 100 | 0 | 44.2 | 0 | 0 | 18.2 | 34.5 |
| 同程度 | 0 | 0 | 0 | 35.8 | 0 | 9.1 | 39.4 | 33.3 |
| どちらもなし | 50.0 | 0 | 100 | 8.3 | 0 | 0 | 9.1 | 7.5 |
| | | | | 11.7 | 100 | 90.9 | 33.3 | 24.7 |
| 「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%) | | | | n=117 | | n=11 | | n=183 |
| なし | 100 | 100 | 100 | 72.6 | 100 | 36.4 | 68.6 | 72.7 |
| あり(常にコト'-A+) | 0 | 0 | 0 | 15.4 | 0 | 27.3 | 25.7 | 16.4 |
| あり(コト'-A-のことあり) | 0 | 0 | 0 | 12.0 | 0 | 36.4 | 5.7 | 10.9 |
| 「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%) | | | | n=120 | | | n=34 | n=187 |
| なし | 100 | 100 | 100 | 90.0 | 100 | 84.6 | 82.4 | 89.3 |
| あり(常にコト'-A+) | 0 | 0 | 0 | 3.3 | 0 | 0 | 8.8 | 3.7 |
| あり(コト'-A-のことあり) | 0 | 0 | 0 | 6.7 | 0 | 15.4 | 8.8 | 7.0 |

表2-2【医療機関を受診した薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

| | ICD-10 | | | | | | | 全体 |
|-------------------------|------------|----------|----------|---------------|----------|------------|-------------|---------------|
| | F11 | F12 | F13 | F15 | F16 | F18 | F19 | |
| | アヘン類 | 大麻 | 鎮静睡眠薬 | 覚せい剤 | 催幻覚剤 | 揮発性溶剤 | 多剤 | |
| | 2[1.1] | 2[1.1] | 15[7.9] | 122[64.2] | 1[0.5] | 13[6.8] | 35[18.4] | 190[100] |
| 国内で外国人との性接触あり（最近1年間）(%) | | | | | | | | |
| なし | 100 | 100 | 100 | n=121 93.4 | 100 | 92.3 | 88.6 | n=189 93.1 |
| あり（常にコンドームあり） | 0 | 0 | 0 | 5.8 | 0 | 0 | 11.4 | 5.8 |
| あり（コンドームのこじりとあり） | 0 | 0 | 0 | 0.8 | 0 | 7.7 | 0 | 1.1 |
| 性接触ありの場合の相手 | | | | | | | | |
| 「風俗」で | n=0 - | n=0 - | n=0 - | n=10 30.0 | n=0 - | n=1 100 | n=2 50.0 | n=15 40.0 |
| 「風俗」以外で | - | - | - | 50.0 | - | 0 | 50.0 | 46.7 |
| 両方で | - | - | - | 10.0 | - | 0 | 0 | 6.7 |
| 不明 | - | - | - | 10.0 | - | 0 | 0 | 6.7 |
| 海外渡航歴のある者（最近1年間）(%) | | | | | | | | |
| 上記のうち | 50.0 | 0 | 0 | n=121 4.1 | 0 | 0 | 11.4 | n=189 5.3 |
| 渡航先で薬物使用のあった者 | n=1 100 | n=0 - | n=0 - | n=4 25.0 | n=0 - | n=0 0 | n=4 75.0 | n=9 55.6 |
| 渡航先で性交渉のあった者 | 0 | - | - | 75.0 | - | 0 | 25.0 | 33.3 |

表3 【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

| | これまでに 注射経験なし 73[38.6] | これまでに注射経験あり | | 入れ墨 | |
|---------------|-----------------------------|---------------------|---------------------|-----------------|----------------|
| | | 1年間にはなし 27[14.3] | 1年間にもあり 89[47.1] | なし 142[74.7] | あり 48[25.3] |
| 性別 | | | | | |
| 男 | 53[38.1] | 23[16.5] | 63[45.3] | 96[69.6] | 44[31.4] |
| 女 | 20[40.0] | 4[8.0] | 26[52.0] | 46[92.0] | 4[8.0] |
| 年齢 | | | | | |
| 20歳未満 | 3[50.0] | 0[0] | 3[50.0] | 5[83.3] | 1[16.7] |
| 20歳代 | 31[52.5] | 6[10.2] | 22[37.3] | 44[74.6] | 15[25.4] |
| 30歳代 | 28[36.8] | 12[15.8] | 36[47.4] | 64[83.1] | 13[16.9] |
| 40歳代 | 7[21.9] | 5[15.6] | 20[62.5] | 21[65.6] | 11[34.4] |
| 50歳代 | 3[30.0] | 3[30.0] | 4[40.0] | 6[60.0] | 4[40.0] |
| 60歳代 | 1[16.7] | 1[16.7] | 4[66.7] | 2[33.3] | 4[66.7] |
| 平均年齢±SD | 31.6±9.5 | 37.9±10.7 | 36.0±10.7 | 33.4±9.2 | 37.8±13.1 |
| 現在の配偶歴 | | | | | |
| 未婚 | 78.1 | 59.3 | 58.4 | 67.6 | 60.4 |
| 既婚 | 20.5 | 22.2 | 15.7 | 19.7 | 14.6 |
| 離婚 | 1.4 | 18.5 | 25.8 | 12.0 | 25.0 |
| 死別 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0.7 | 0 |
| 離婚歴あり | 9.6 | 29.6 | 30.3 | 17.6 | 35.4 |
| 血清検査(%) | | | | | |
| HIV抗体陽性率 | 1.4 1/73 | 0 0/27 | 1.2 1/85 | 1.4 2/140 | 0 0/44 |
| HCV抗体陽性率 | 2.2 0/72 | 37.0 10/27 | 44.9 40/89 | 22.0 31/141 | 39.6 |
| HBs抗原陽性率 | 0 | 0 | 4.5 | 2.1 | 2.1 |
| HBs抗体陽性率 | 0 0/58 | 0 0/22 | 4.5 3/66 | 0.9 1/109 | 5.3 2/38 |
| HBc抗体陽性率 | 2.4 1/41 | 0 0/14 | 0 0/37 | 1.4 1/70 | 0 0/23 |
| TPHA陽性率 | 0 | 3.7 | 1.1 | 0 | 4.2 |
| 性病既往(自己申告)(%) | | | | | |
| 毛ジラミ | 1.4 | 11.1 | 11.2 | 4.2 | 16.7 |
| 淋病 | 1.4 | 3.7 | 6.7 | 2.8 | 8.3 |
| クラミジア | 1.4 | 0 | 1.1 | 1.4 | 0 |
| 梅毒 | 0 | 3.7 | 3.4 | 0.7 | 6.3 |
| 身体所見(%) | | | | | |
| 輸血の既往あり | 1.4 | 0 | 1.1 | 1.4 | 0 |
| 歯の著明不良あり | 19.2 | 29.6 | 37.1 | 28.9 | 29.2 |
| 注射痕あり | 0 | 3.7 | 47.2 | 20.4 | 29.2 |
| 入れ墨あり | 11.0 | 37.0 | 33.7 | 0 | 100 |
| 指つめあり | 0 | 25.9 | 14.6 | 4.9 | 27.1 |
| 根性焼きあり | 20.5 | 25.9 | 21.3 | 19.7 | 27.1 |
| 自傷痕あり | 9.6 | 7.4 | 13.5 | 14.1 | 2.1 |

表4-1 医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

| | | これまで | | | 入れ墨 | |
|---------------------------------|-------------------|----------------|---------------------|---------------------|-----------|----------|
| | | これまで 注射経験なし | これまで注射経験あり | | なし | あり |
| | | 73[38.6] | 1年間にはなし 27[14.3] | 1年間にもあり 89[47.1] | 142[74.7] | 48[25.3] |
| 性別 | | | | | | |
| | 男 | 53[38.1] | 23[16.5] | 63[45.3] | 96[69.6] | 44[31.4] |
| | 女 | 20[40.0] | 4[8.0] | 26[52.0] | 46[92.0] | 4[8.0] |
| これまで (%) | | n=141 | | | | |
| | 注射経験あり | | 100 | 100 | 53.9 | 83.3 |
| | シジ 共有経験あり | | 59.3 | 73.0 | 38.3 | 56.3 |
| | 針の共有経験あり | | 55.6 | 70.8 | 36.2 | 56.3 |
| | 注射経験の注射回数 | | | | | |
| | なし | | 0 | 0 | 45.8 | 16.7 |
| | 1~49回 | | 55.6 | 33.7 | 23.2 | 25.0 |
| | 50~99回 | | 22.2 | 34.8 | 15.5 | 31.3 |
| | 100回以上 | | 22.2 | 30.3 | 14.1 | 27.1 |
| | 不明 | | 0 | 1.1 | 1.4 | 0 |
| 最近1年間で (%) | | n=141 | | | | |
| | 注射経験あり | | | 100 | 41.8 | 62.5 |
| | シジ 共有経験あり | | | 52.8 | 23.4 | 29.2 |
| | 針の共有経験あり | | | 48.3 | 21.3 | 27.1 |
| | 注射経験の注射回数 | | | | | |
| | なし | | | 0 | 57.7 | 37.5 |
| | 1~49回 | | | 89.9 | 37.3 | 56.3 |
| | 99回 | | | 6.7 | 2.8 | 4.2 |
| | 100回以上 | | | 2.2 | 0.7 | 2.1 |
| | 不明 | | | 1.1 | 1.4 | 0 |
| これまで「あぶり」の経験あり (%) | | n=141 | | | | |
| | | 45.2 | 70.4 | 65.2 | 58.2 | 58.3 |
| この1年間で「あぶり」の経験あり (%) | | n=141 | | | | |
| | | 41.1 | 44.4 | 50.6 | 46.8 | 43.8 |
| この1年間ではどちらが多いか? (%) | | | | | | |
| | 注射 | 0 | 3.7 | 66.3 | 28.2 | 41.7 |
| | 「あぶり」 | 41.1 | 44.4 | 18.0 | 33.1 | 22.9 |
| | 同程度 | 0 | 0 | 14.6 | 5.6 | 10.4 |
| | どちらもなし | 38.4 | 51.9 | 1.1 | 21.8 | 25.0 |
| | 不明 | 20.5 | 0 | 0 | 11.6 | 0 |
| 「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%) | | | | | | |
| | なし | 75.3 | 77.8 | 64.0 | 69.7 | 70.8 |
| | あり (常にコト -A+) | 16.4 | 14.8 | 15.7 | 16.2 | 14.6 |
| | あり (コト -A- のことあり) | 5.5 | 3.7 | 16.9 | 10.6 | 10.4 |
| | 不明 | 2.7 | 3.7 | 3.4 | 3.5 | 4.2 |
| 「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%) | | | | | | |
| | なし | 91.8 | 92.6 | 84.3 | 86.6 | 91.7 |
| | あり (常にコト -A+) | 4.1 | 3.7 | 3.4 | 4.2 | 2.1 |
| | あり (コト -A- のことあり) | 2.7 | 3.7 | 11.2 | 7.7 | 4.2 |
| | 不明 | 1.4 | 0 | 1.1 | 1.4 | 2.1 |
| 国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%) | | | | | | |
| | なし | 95.9 | 92.6 | 91.0 | 93.0 | 91.7 |
| | あり (常にコト -A+) | 4.1 | 3.7 | 7.9 | 4.9 | 8.3 |
| | あり (コト -A- のことあり) | 0 | 3.7 | 1.1 | 1.4 | 0 |
| | 不明 | 0 | 0 | 0 | 0.7 | 0 |
| | 性接触ありの場合 | n=3 | n=2 | n=9 | n=10 | n=4 |
| | 「風俗」で | 66.7 | 100 | 22.2 | 36.4 | 50.0 |
| | 「風俗」以外で | 33.3 | 0 | 66.7 | 45.5 | 50.0 |
| | 両方で | 0 | 0 | 11.1 | 9.1 | 0 |

表 4-2 【医療機関を受診した薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

| | | これまでの注射経験あり | | | 入れ墨 | |
|----------------------------------|---|----------------------------|---------------------|---------------------|-----------------|----------------|
| | | これまで 注射経験なし 73[38.6] | 1年間にはなし 27[14.3] | 1年間にもあり 89[47.1] | なし 142[74.7] | あり 48[25.3] |
| 性別 | 男 | 53[38.1] | 23[16.5] | 63[45.3] | 96[69.6] | 44[31.4] |
| | 女 | 20[40.0] | 4[8.0] | 26[52.0] | 46[92.0] | 4[8.0] |
| 国外渡航歴のある者(最近1年間)(%) | | 5.5 | 3.7 | 5.6 | 3.5 | 10.4 |
| 上記のうち、渡航先で薬物使用のあった者 50.0(2/4) | | | 0(0/1) | 60.0(3/5) | 60.0(3/5) | 40.0(2/5) |
| 渡航先で性交渉のあった者 0(0/4) | | | 100(1/1) | 40.0(2/5) | 40.0(2/5) | 40.0(2/5) |

これまでの推移-1

①精神科医療施設に入院した覚せい剤乱用・依存者調査(実人数) 複数回の人間は、初回をカウント

| | 1993 | 1994 | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 |
|---------------------------------|---------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|----------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| HIV Ab 検査数 | 39 | 41 | 47 | 162 | 270 | 316 | 340 | 362 | 291 | 313 |
| HIV Ab + | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.3 | 0.3 |
| HCV Ab + | 53.8 21/39 | 65.1 28/43 | 43.6 24/55 | 46.1 82/178 | 43.6 127/291 | 53.0 165/317 | 43.2 153/354 | 42.0 153/364 | 44.7 140/313 | 40.5 128/316 |
| HBs Ag + | 2.6 1/39 | 2.3 1/43 | 0 0/60 | 1.7 3/181 | 2.4 7/290 | 1.9 6/318 | 3.4 12/355 | 2.2 8/365 | 0.3 1/313 | 2.5 8/317 |
| HBs Ab + | 25.6 10/39 | 25.6 11/43 | 10.8 4/37 | 13.0 18/138 | 8.0 20/250 | 11.5 10/87 | 12.2 14/115 | 3.8 10/262 | 3.9 4/103 | 2.2 2/93 |
| HBc Ab + | | | | 16.7 1/6 | 9.4 5/53 | 18.0 12/61 | 5.8 6/104 | 0 0/82 | 4.9 4/81 | 0 0/60 |
| % Needle Use (lifetime) | 92.1 35/38 | 95.3 41/43 | 93.3 56/60 | 98.0 50/51 | 89.9 134/149 | 92.0 127/138 | 86.7 156/180 | 94.9 149/157 | 66.9 83/124 | 77.7 94/121 |
| % Needle Use (past year) | | 50.0 5/10 | 70.0 42/60 | 88.2 45/51 | 67.6 98/145 | 68.1 94/138 | 71.1 128/180 | 84.7 133/157 | 58.1 72/124 | 62.0 75/121 |
| % Needle Sharing (lifetime) | 84.2 32/38 | 88.4 38/43 | 67.9 36/53 | 97.2 35/36 | 81.3 109/134 | 78.9 101/128 | 58.9 99/168 | 61.8 97/157 | 48.0 59/123 | 55.4 67/121 |
| % Needle Sharing (past year) | | 40.0 4/10 | 32.7 17/52 | 52.9 18/34 | 45.8 60/131 | 68.1 94/138 | 37.3 62/166 | 37.6 59/157 | 35.0 43/123 | 30.6 37/121 |
| 「あぶり」の経験+ (lifetime) | | | | | | 30.3 47/155 | 53.4 93/174 | 59.9 94/157 | 59.6 74/124 | 71.1 86/121 |
| 「あぶり」の経験+ (past year) | | | | | | 20.8 32/154 | 48.0 84/175 | 45.2 71/157 | 61.1 66/108 | 56.2 68/121 |
| 注射か「あぶり」か (past year) | | | | | | 63.2 9.0 1.3 26.5 | 49.2 28.5 8.4 14.0 | 68.2 16.6 7.6 6.4 | 40.7 41.7 10.2 7.4 | 44.2 35.8 8.3 11.7 |
| n | | | | | | 155 | 179 | 157 | 108 | 120 |
| 調査施設数 | 関東1 | 関東1 関西1 | 関東2 関西1 | 全国6 | 全国7 | 全国6 | 全国6 | 全国7 | 全国7 | 全国6 |

表5 【医療機関を受診していない薬物依存者】の属性・血清検査・身体所見(%)

| | | 主診断 (ICD-10) | | | | | | |
|---------------|----------|--------------|--------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | | F10 | F12 | F13 | F15 | F18 | F19 | 全体 |
| | | アルコール | 大麻 | 鎮静睡眠薬 | 覚せい剤 | 揮発性溶剤 | 多剤 | |
| | | 1[1.5] | 4[6.1] | 3[4.5] | 42[63.6] | 8[12.1] | 8[12.1] | 66[100] |
| 性別 | | | | | | | | |
| | 男 | 1(100) | 3(75.0) | 3(100) | 38(90.5) | 7(87.5) | 8(100) | 60(90.9) |
| | 女 | 0(0) | 1(25.0) | 0(0) | 4(9.5) | 1(12.5) | 0(0) | 6(9.1) |
| 年齢 | 20歳未満 | | | | 3(7.1) | 1(12.5) | | 4(6.1) |
| | 20歳代 | | 2(50.0) | 1(33.3) | 12(28.6) | 2(25.0) | 4(50.0) | 21(31.8) |
| | 30歳代 | 1(100) | 2(50.0) | 1(33.3) | 14(33.3) | 3(37.5) | 3(37.5) | 24(36.4) |
| | 40歳代 | | | 1(33.3) | 9(21.4) | 2(25.0) | | 12(18.2) |
| | 50歳代 | | | | 3(7.1) | | 1(12.5) | 4(6.1) |
| | 60歳代 | | | | 1(2.4) | | | 1(1.5) |
| | 平均年齢±SD | 33.0 | 27.8 ±5.7 | 34.7 ±10.0 | 34.0 ±10.6 | 31.1 ±9.0 | 31.0 ±9.0 | 32.9 ±9.8 |
| 現在の配偶歴(%) | | | | | | | | |
| | 未婚 | | 100 | 66.7 | 61.9 | 75.0 | 87.5 | 68.2 |
| | 既婚 | | | | 9.5 | 12.5 | 12.5 | 9.1 |
| | 離婚 | 100 | | 33.3 | 26.2 | 12.5 | | 21.2 |
| | 死別 | | | | 2.4 | | | 1.5 |
| | 離婚歴あり | 100 | 0 | 33.3 | 31.0 | 25.0 | 0 | 25.8 |
| 血清検査(%) | | | | | | | | |
| | HIV抗体陽性 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | HCV抗体陽性 | 0 | 0 | 66.7 | 31.0 | 12.5 | 12.5 | 25.8 |
| | HBs抗原陽性 | 0 | 0 | 0 | 2.4 1/41 | 0 | 0 | 1.5 1/65 |
| | HBs抗体陽性 | 0 | 0 | - | 10.3 3/29 | 16.7 1/6 | 0 0/5 | 8.9 4/45 |
| | HBc抗体陽性 | 0 | 0 | - | 17.2 5/29 | 16.7 1/6 | 20.0 1/5 | 15.6 7/45 |
| | TPHA陽性率 | 0 | 0 | 0 | 2.4 | 0 | 0 | 1.5 |
| 性病既往(自己申告)(%) | | | | | | | | |
| | 毛ジラミ | 0 | 0 | 0 | 11.9 | 12.5 | 12.5 | 10.6 |
| | 淋病 | 0 | 25.0 | 0 | 23.8 | 12.5 | 0 | 18.2 |
| | クラミジア | 0 | 0 | 0 | 9.5 | 12.5 | 12.5 | 9.1 |
| | 梅毒 | 0 | 0 | 0 | 2.4 | 0 | 0 | 1.5 |
| 身体所見(%) | | | | | | | | |
| | 輸血の既往あり | 0 | 0 | 0 | 21.9 9/40 | 0 0/6 | 0 | 1.7 9/62 |
| | 歯の著明不良あり | 0 | 25.0 | 33.3 | 38.1 | 37.5 | 50.0 | 37.9 |
| | 注射痕あり | 0 | 0 | 0 | 19.0 | 12.5 | 0 | 13.6 |
| | 入れ墨あり | 0 | 25.0 | 33.3 | 35.7 | 12.5 | 12.5 | 28.8 |
| | 指つめあり | 0 | 0 | 0 | 16.7 | 0 | 0 | 10.6 |
| | 根性焼きあり | 0 | 50.0 | 33.3 | 35.7 | 50.0 | 37.5 | 37.9 |
| | 自傷痕あり | 0 | 25.0 | 33.3 | 23.8 | 50.0 | 12.5 | 25.8 |

表6【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射行動・性行動(%)

| | ICD-10 | | | | | | 全体 |
|--------------------------------------|--------|--------|--------|----------|---------|---------|---------|
| | F10 | F12 | F13 | F15 | F18 | F19 | |
| | アルコール | 大麻 | 鎮静睡眠薬 | 覚せい剤 | 揮発性溶剤 | 多剤 | |
| | 1[1.5] | 4[6.1] | 3[4.5] | 42[63.6] | 8[12.1] | 8[12.1] | 66[100] |
| これまでに(%) | | | | | | | |
| 注射経験あり | 0 | 50.0 | 33.3 | 81.0 | 37.5 | 62.5 | 68.2 |
| シリンジ共有経験+ | 0 | 25.0 | 33.3 | 69.0 | 37.5 | 37.5 | 56.1 |
| 針の共有経験 | 0 | 25.0 | 33.3 | 66.7 | 37.5 | 37.5 | 54.5 |
| 注射回数 | | | | | | | |
| なし | 100 | 50.0 | 66.7 | 19.0 | 62.5 | 37.5 | 31.8 |
| 1~49回 | | 25.0 | 0 | 11.9 | 12.5 | 37.5 | 15.2 |
| 50~99回 | | 0 | 0 | 4.8 | 0 | 0 | 3.0 |
| 100回以上 | | 25.0 | 33.3 | 61.9 | 25.0 | 25.0 | 48.5 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 2.4 | 0 | 0 | 1.5 |
| 最近1年間で | | | | | | | |
| 注射経験あり | 0 | 0 | 33.3 | 40.5 | 0 | 12.5 | 28.8 |
| シリンジ共有経験+ | 0 | 0 | 0 | 19.0 | 0 | 0 | 12.1 |
| 針の共有経験+ | 0 | 0 | 0 | 16.7 | 0 | 0 | 10.6 |
| 注射回数 | | | | | | | |
| なし | 100 | 100 | 66.7 | 59.5 | 100 | 87.5 | 71.2 |
| 1~49回 | | | 33.3 | 28.6 | | 12.5 | 21.2 |
| 50~99回 | | | 0 | 2.4 | | 0 | 1.5 |
| 100回以上 | | | 0 | 9.5 | | 0 | 6.1 |
| これまでに「あぶり」の経験あり(%) | | | | | | | |
| | 0 | 50.0 | 33.3 | 64.3 | 12.5 | 37.5 | 51.5 |
| この1年間で「あぶり」の経験あり(%) | | | | | | | |
| | 0 | 50.0 | 33.3 | 14.6 | 0 | 12.5 | 15.4 |
| | | | | 6/41 | | | 10/65 |
| この1年間ではどちらが多いか?(%) | | | | | | | |
| 注射 | | | 0 | 40.5 | 0 | 0 | 25.8 |
| 「あぶり」 | | 50.0 | 0 | 9.5 | 0 | 0 | 9.1 |
| 同程度 | | 0 | 33.3 | 0 | 0 | 12.5 | 3.0 |
| どちらもなし | 100 | 50.0 | 66.7 | 47.6 | 100 | 87.5 | 60.6 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 2.4 | 0 | 0 | 1.5 |
| 「風俗」での性接触あり(最近1年間)(%) | | | | | | | |
| なし | 0 | 75.0 | 0 | 76.2 | 62.5 | 62.5 | 69.2 |
| あり(常にコンドーム+) | 100 | 0 | 100 | 9.5 | 25.0 | 25.0 | 15.4 |
| あり(コンドーム-のこともあり) | 0 | 25.0 | 0 | 11.9 | 12.5 | 12.5 | 12.3 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 2.4 | 0 | 0 | 1.5 |
| 「風俗」以外での不特定多数と性接触あり(最近1年間)(%) | | | | | | | |
| なし | 0 | 100 | 66.7 | 85.7 | 62.5 | 75.0 | 80.3 |
| あり(常にコンドーム+) | 10 | 0 | 33.3 | 4.8 | 0 | 0 | 6.1 |
| あり(コンドーム-のこともあり) | 0 | 0 | 0 | 9.5 | 37.5 | 25.0 | 13.6 |
| 国内で外国人との性接触あり(最近1年間)(%) | | | | | | | |
| なし | 100 | 100 | 66.7 | 92.9 | 87.5 | 100 | 92.4 |
| あり(常にコンドーム+) | 0 | 0 | 33.3 | 2.4 | 0 | 0 | 3.0 |
| あり(コンドーム-のこともあり) | 0 | 0 | 0 | 4.8 | 12.5 | 0 | 4.5 |
| 性接触ありの場合の相手 | n= | n=0 | n=1 | n=3 | n=1 | n=0 | n=5 |
| 「風俗」で | - | - | 100 | 66.7 | 0 | - | 60.0 |
| 「風俗」以外で | - | - | 0 | 33.3 | 0 | - | 20.0 |
| 両方で | - | - | 0 | 0 | 100 | - | 20.0 |
| 海外渡航歴のある者(最近1年間)(%) | | | | | | | |
| | 0 | 0 | 0 | 14.3 | 12.5 | 12.5 | 12.1 |
| 上記のうち | n=0 | n=0 | n=0 | n=6 | n=1 | n=1 | n=8 |
| 渡航先で薬物使用のあった者 | - | - | - | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 渡航先で性交渉のあった者 | - | - | - | 0 | 0 | 100 | 12.5 |

表7【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と属性・血清検査・身体所見

| | | これまで | | | 入れ墨 | |
|---------------|----------|--------------------|---------------------|---------------------|----------------|----------------|
| | | 注射経験なし 20[30.3] | 1年間にはなし 27[40.9] | 1年間にもあり 19[28.8] | なし 47[71.2] | あり 19[28.8] |
| 性別 | | | | | | |
| | 男 | 19[31.7] | 23[38.3] | 18[30.0] | 42[70.0] | 18[30.0] |
| | 女 | 1[16.7] | 4[66.7] | 1[16.7] | 5[83.3] | 1[16.7] |
| 年齢 | | | | | | |
| | 20歳未満 | 1[25.0] | 2[50.0] | 1[25.0] | 4[100] | 0[0] |
| | 20歳代 | 8[38.1] | 5[23.8] | 8[38.1] | 14[66.7] | 7[33.3] |
| | 30歳代 | 8[33.3] | 11[45.8] | 5[20.8] | 19[79.2] | 5[20.8] |
| | 40歳代 | 2[16.7] | 6[50.0] | 4[33.3] | 7[58.3] | 5[41.7] |
| | 50歳代 | 1[25.0] | 2[50.0] | 1[25.0] | 3[75.0] | 1[25.0] |
| | 60歳以上 | 0[0] | 1[100] | 0[0] | 0[0] | 1[100] |
| | 平均年齢±SD | 31.0±7.9 | 35.2±11.0 | 32.9±9.8 | 31.8±8.6 | 35.7±12.1 |
| 現在の配偶歴 | | | | | | |
| | 未婚 | 70.0 | 74.1 | 57.9 | 72.3 | 57.9 |
| | 既婚 | 10.0 | 3.7 | 15.8 | 8.5 | 10.5 |
| | 離婚 | 20.0 | 18.5 | 26.3 | 19.1 | 26.3 |
| | 死別 | 0 | 3.7 | 0 | 0 | 5.3 |
| | 離婚歴あり | 20.0 | 22.2 | 36.8 | 23.4 | 31.6 |
| 血清検査(%) | | | | | | |
| | HIV抗体陽性率 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | HCV抗体陽性率 | 10.0 | 25.9 | 42.1 | 19.1 | 42.1 |
| | HBs抗原陽性率 | 0 | 3.8 | 0 | 2.1 | 0 |
| | | | 1/26 | | | 0/18 |
| | HBs抗体陽性率 | 0 | 15.0 | 6.7 | 3.3 | 20.0 |
| | | 0/10 | 3/20 | 1/15 | 1/30 | 3/15 |
| | HBc抗体陽性率 | 10.0 | 20.0 | 13.3 | 10.0 | 26.7 |
| | | 1/10 | 4/20 | 2/15 | 3/30 | 4/15 |
| | TPHA陽性率 | 0 | 3.7 | 0 | 0 | 5.3 |
| 性病既往(自己申告)(%) | | | | | | |
| | 毛ジラミ | 5.0 | 7.4 | 21.1 | 8.5 | 15.8 |
| | 淋病 | 15.0 | 22.2 | 15.8 | 19.1 | 15.8 |
| | クラミジア | 10.0 | 3.7 | 15.8 | 8.5 | 10.5 |
| | 梅毒 | 0 | 3.7 | 0 | 0 | 5.3 |
| 身体所見(%) | | | | | | |
| | 輸血の既往あり | 5.9 | 15.4 | 22.2 | 13.6 | 17.6 |
| | | 1/17 | 4/26 | 4/18 | 6/44 | 3/17 |
| | 歯の著明不良あり | 30.0 | 40.7 | 42.1 | 31.9 | 52.6 |
| | 注射痕あり | 0 | 18.5 | 21.1 | 8.5 | 26.3 |
| | 入れ墨あり | 5.0 | 29.6 | 52.6 | | |
| | 指つめあり | 0 | 14.8 | 15.8 | 6.4 | 21.1 |
| | 根性焼きあり | 25.0 | 37.0 | 52.6 | 27.7 | 63.2 |
| | 自傷痕あり | 10.0 | 37.0 | 26.3 | 19.1 | 42.1 |

表8 【医療機関を受診していない薬物依存者】の注射経験、入れ墨と注射行動・性行動

| | これまで | | | 入れ墨 | |
|--|--------------------|---------------------|---------------------|----------------|----------------|
| | 注射経験なし 20[30.3] | これまで注射経験あり | | なし 47[71.2] | あり 19[28.8] |
| | | 1年間にはなし 27[40.9] | 1年間にもあり 19[28.8] | | |
| これまで (%) | | | | | |
| 注射経験あり | | 100 | 100 | 57.4 | 94.7 |
| シリンジ 共有経験あり | | 77.8 | 84.2 | 44.7 | 84.2 |
| 針の共有経験あり | | 77.8 | 78.9 | 42.6 | 84.2 |
| 注射経験の注射回数 | | | | | |
| なし | | 3.7 | 0 | 42.6 | 5.3 |
| 1～49回 | | 29.6 | 10.5 | 19.1 | 5.3 |
| 50～99回 | | 3.7 | 5.3 | 4.3 | 0 |
| 100回以上 | | 59.3 | 84.2 | 34.0 | 84.2 |
| 不明 | | 3.7 | 0 | 0 | 5.3 |
| 最近1年間で (%) | | | | | |
| 注射経験あり | | | 100 | 19.1 | 52.6 |
| シリンジ 共有経験あり | | | 42.1 | 10.6 | 15.8 |
| 針の共有経験あり | | | 36.8 | 8.5 | 15.8 |
| 注射経験の注射回数 | | | | | |
| なし | | | 0 | 80.9 | 47.4 |
| 1～49回 | | | 73.7 | 10.6 | 47.4 |
| 99回 | | | 5.3 | 2.1 | 0 |
| 100回以上 | | | 21.1 | 6.4 | 5.3 |
| これまで「あぶり」の経験あり (%) | | | | | |
| | 45.0 | 44.4 | 68.4 | 51.1 | 52.6 |
| この1年間で「あぶり」の経験あり (%) | | | | | |
| | 25.0 | 3.7 | 21.1 | 14.9 | 15.8 |
| この1年間でどちらが多いか? (%) | | | | | |
| 注射 | 0 | 0 | 89.5 | 19.1 | 42.1 |
| 「あぶり」 | 25.0 | 3.7 | 0 | 12.8 | 0 |
| 同程度 | 0 | 0 | 10.5 | 0 | 10.5 |
| どちらもなし | 75.0 | 92.6 | 0 | 66.0 | 47.4 |
| 不明 | 0 | 3.7 | 0 | 2.1 | 0 |
| 「風俗」での性接触あり (最近1年間) (%) | | | | | |
| なし | 65.0 | 77.8 | 57.9 | 70.2 | 63.2 |
| あり (常にコンドーム+) | 20.0 | 11.1 | 21.1 | 14.9 | 21.1 |
| あり (コンドーム-のこともあり) | 10.0 | 11.1 | 15.8 | 10.6 | 15.8 |
| 不明 | 5.0 | 0 | 5.3 | 4.3 | 0 |
| 「風俗」以外での不特定多数と性接触あり (最近1年間) (%) | | | | | |
| なし | 65.0 | 88.9 | 84.2 | 80.9 | 78.9 |
| あり (常にコンドーム+) | 10.0 | 7.4 | 0 | 8.5 | 0 |
| あり (コンドーム-のこともあり) | 25.0 | 3.7 | 15.8 | 10.6 | 21.1 |
| 国内で外国人との性接触あり (最近1年間) (%) | | | | | |
| なし | 90.0 | 92.6 | 94.7 | 93.6 | 89.5 |
| あり (常にコンドーム+) | 5.0 | 3.7 | 0 | 4.3 | 0 |
| あり (コンドーム-のこともあり) | 5.0 | 3.7 | 5.3 | 2.1 | 10.5 |
| 性接触ありの場合 | | | | | |
| 「風俗」で | 50.0 | 100 | 0 | 66.7 | 50.0 |
| 「風俗」以外で | 0 | 0 | 100 | 0 | 50.0 |
| 両方で | 50.0 | 0 | 0 | 33.3 | 0 |
| 外渡航歴のある者 (最近1年間) (%) | | | | | |
| | 15.0 | 7.4 | 15.8 | 8.5 | 21.1 |
| 上記のうち、渡航先で薬物使用のあった者 | | | | | |
| | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 渡航先で性交渉のあった者 | | | | | |
| | 0 | 0 | 33.3 | 0 | 25.0 |
| 上記のうち、コンドームを使わなかったことのある者 | | | | | |
| | 0 | 0 | 100 | 0 | 100 |

これまでの推移-2

②医療機関を受診していない覚せい剤乱用・依存者調査(実人数)複数回の間は、初回をカウント

| | 1995 | 1996 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 |
|-----------------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| HIV Ab 検査数 | 4 | 9 | 11 | 33 | 35 | 18 | 37 | 42 |
| HIV Ab + | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| HCV Ab + | 25.0 1/4 | 44.4 4/9 | 9.1 1/11 | 53.0 7/32 | 48.6 17/35 | 38.9 7/18 | 40.5 15/37 | 31.0 13/42 |
| HBs Ag + | 0 0/4 | 0 0/8 | 0 0/11 | 0 0/33 | 0 0/35 | 0 0/18 | 0 0/37 | 2.4 1/41 |
| HBs Ab + | | 0 0/8 | 10.0 1/10 | 12.1 4/33 | 11.4 4/35 | 5.6 1/18 | 12.5 3/24 | 10.3 3/29 |
| HBc Ab + | | | 10.0 1/10 | 12.5 4/32 | 14.3 5/35 | 11.1 2/18 | 12.5 3/24 | 17.2 5/29 |
| % Needle Use (lifetime) | 100 4/4 | 83.3 5/6 | 90.9 10/11 | 75.8 25/33 | 88.6 31/35 | 88.9 16/18 | 81.8 30/37 | 81.0 34/42 |
| % Needle Use (past year) | 75.0 3/4 | 50.0 3/6 | 72.7 8/11 | 42.4 14/33 | 65.7 23/35 | 38.9 7/18 | 45.9 17/37 | 40.5 17/42 |
| % Needle Sharing(lifetime) | 50.0 2/4 | 66.7 4/6 | 81.8 9/11 | 69.7 23/33 | 79.4 27/34 | 72.2 13/18 | 73.0 27/37 | 66.7 28/42 |
| % Needle Sharing(past year) | 25.0 1/4 | 33.3 2/6 | 54.5 6/11 | 36.4 12/33 | 54.4 19/35 | 22.2 4/18 | 32.4 12/37 | 16.7 7/42 |
| 「あぶり」の経験(lifetime) | | | | 71.0 22/31 | 60.0 21/35 | 72.2 13/18 | 56.8 21/37 | 64.3 27/42 |
| 「あぶり」の経験(past year) | | | | 37.5 12/32 | 34.3 12/35 | 38.9 7/18 | 35.1 13/37 | 14.6 6/41 |
| 注射か「あぶり」か(past year) | | | | 34.4 | 57.1 | 22.2 | 43.2 | 41.5 |
| 注射 | | | | 18.8 | 17.1 | 27.8 | 13.5 | 9.7 |
| 「あぶり」 | | | | 6.3 | 5.1 | 5.6 | 0 | 0 |
| 同程度 | | | | 40.6 | 20.0 | 33.3 | 43.2 | 48.8 |
| どちらもなし | | | | | | | | |
| n | | | | 32 | 35 | 18 | 37 | 41 |
| 調査施設数 | 全国1 | 全国1 | 全国2 | 全国2 | 全国2 | 全国2 | 全国2 | 全国2 |

STD クリニック受診者を対象とする HIV/STD の関連性の血清疫学的研究

グループ長：熊本 悦明（札幌医大、性の健康医学財団、）

班 員：澤畑 一樹（三菱化学 BCL）、塚本 泰司（札幌医大泌尿器科）

研究協力者：小野寺 昭一（慈恵医大泌尿器科）、西大條 文一（北新宿同仁斉 M.C）

澤村 正之（新宿さくらクリニック）、尾関 全彦（尾関皮膚泌尿器科）、

赤枝 常雄（赤枝六本木診療所）、尾上 泰彦（宮本町中央診療所）、

堀 裕雄（堀病院）、大国 剛（大国診療所）、南 邦彦（札幌東豊病院）、

吉尾 弘（産婦人科吉尾医院）、今井博久（宮崎医大公衆衛生）

【研究要旨】：HIV 感染はその初期には無症状であるため、他の STD で受診し発見されることが多い。そのため HIV 感染の流行を調査するためには他の STD 症例群におけるこの疾患の合併に注目する必要がある。本研究では、この点に関する継続的かつ広範囲な調査を従来から実施しており、本年度もこの点の調査を継続した。さらに、HIV 感染を促進する他の STD の臨床的問題も同時に検討した。

- 1) STD 症例群における HIV 抗体陽性例が徐々に増加しつつあり、ことに梅毒における HIV 抗体陽性率 (3.7%) が最も高かった。特に、MSM の症例にその傾向が顕著であった。それを反映してか、HIV 抗体陽性率の年齢別検討で 30~40 歳例の陽性率が高かった。
- 2) AIDS 症例における各種 STD 関連抗体の保有率は、健康成人あるいは AIDS 以外の STD 症例のそれよりも明らかに高かった。特に TP 抗体 (TPHA) 陽性率は健康成人あるいは AIDS および梅毒以外の STD ではきわめて低かったにもかかわらず、AIDS 症例の男性における陽性率は 44.1%、女性におけるそれは 24.3%と、その陽性率の高さは顕著であった。
- 3) HIV 感染の流行の元になると考えられるクラミジア感染症あるいは淋菌感染症の疫学的研究からは、その罹患率の上昇が継続していることが判明した。若年者における sex partner の数とクラミジアの無症候感染の率は有意に相関し、partner が 1 人の場合の感染率は男性：2.5%、女性：3.2%であったが、4 人以上の場合には男性：15.1%、女性：14.9%と著明に上昇していた。
- 4) 妊婦におけるクラミジア感染率を 1996 年からの継続的な検討しているが、既婚妊婦（計 16,054 例）、未婚妊婦（計 3,505 例）ともその率が徐々の上昇しており、最近我々が施行している予防啓蒙効果として期待している低下傾向は全く見られていなかった。2002 年度では既婚妊婦の感染率は 4.5%未婚妊婦のそれは 16.5%であった。
- 5) 淋菌感染症では、若年女性における感染率の上昇が顕著であり、ことに 15-19 歳では男女比が 1：1 にまでなっていた。しかも女子感染の 8 割が無症候感染とされており、若い女性における増加傾向が憂慮されている。
- 6) 淋菌の薬剤耐性化傾向に著しさがその流行を促進しているとも考えられる。

A 研究目的

HIV 感染の流行を調査するためには、他の STD におけるこの HIV 感染の合併に注目する必要がある。本研究では、この点に関する継続的かつ広範囲な調査を従来から実施してきた。本年度は、1) 各種 STD 症例群における HIV 抗体陽性率、2) 各種 STD 症例における STD 関連抗体陽性率、3) HIV 感染を促進するクラミジア&淋菌感染症の疫学、4) 殊に最近問題化している淋菌感染症の無症候化と薬剤耐性、について検討した。

B. 研究方法

- 1) 泌尿器科、産婦人科の調査施設を受診した STD 症例および検診受診した CSW の血清について *unlinked, anonymous screening* で各種 STD 抗体陽性率を検討した。
- 2) 調査施設を受診した妊婦における性器クラミジア感染陽性率を検討した。
- 3) 臨床分離淋菌株につき薬剤耐性機序の細菌学的分析

C. 研究結果

- 1) 各種 STD 症例群における HIV 抗体陽性率
各種 STD 症例群では梅毒における HIV 抗体陽性率 (3.7%) が最も高かった (図 1)。特に、MSM の症例にその傾向が顕著であった。また、それを反映してか HIV 抗体陽性率の年齢別検討では、30~40 歳例での陽性率が高かった。(図 2) さらに尖形コンジローマのみならず、クラミジア尿道炎および子宮頸管炎の症例からも HIV 抗体陽性者が発見されるようになってきた。
- 2) 各種 STD 症例における STD 関連抗体陽性率
AIDS 症例における各種 STD 関連抗体の保

有率は、健康成人あるいは AIDS 以外の STD 症例のそれよりも明らかに高かった (図 3、4、5)。特に TP 抗体 (TPHA) 陽性率は健康成人あるいは AIDS および梅毒以外の STD ではきわめて低かったにもかかわらず、AIDS 症例の男性における陽性率は 44.1%、女性におけるそれは 24.3%と、その陽性率の高さは顕著であった。また、HbC および HVC 抗体陽性率も AIDS 症例あるいは梅毒では他の STD より高かった

3) HIV 感染を促進するクラミジア&淋菌感染症の疫学

HIV 感染の流行を促進すると考えられるクラミジア感染症あるいは淋菌感染症の疫学的研究からは、その罹患率の上昇が継続していることが判明した。(図 6)

若年者における性行動の活発化画素の傾向を著しく促進していると言える。(図 7、8) しかも *sex partner* の数とクラミジアの無症候感染の率は有意に相関している。*partner* が 1 人の場合の感染率は男性:2.5%、女性:3.2%、2 人の場合には男性:6.7%、女性:5.8%、3 人の場合には男性:6.9%、女性:8.7%、4 人以上の場合には男性:15.1%、女性:14.9%と著明に上昇していた。全体では性交経験者では男女と 7-10%に無症候性感染が認められた。(図 9)

無症候性クラミジア感染に疫学調査として行なっている妊婦における感染率調査では、全国調査、横浜および札幌での調査、皆殆ど同じような所見になっており、そのひそかな広がりが如何に全国的に浸透しているかが示されている。(図 10、11、12)

1996 年からの継続的な妊婦におけるクラミジア感染率の検討では、既婚妊婦 (計 16,054 例)、未婚妊婦 (計 3,505 例) とともにその率が徐々に上昇しており、低下傾向は全く見られてい